

随想 やましろ

診察室で「どんなく
なり方が良いか」という
話題になることがありま
す。私はその方向へ話を
持っていく場合もありま
すが、成り行きでそうな
ることもあります。その
ような時、何人かの方が
「ころりと逝きたい」と
言われる。詳しく聞いて
みると、多くの場合「苦
しみに」子供たちの
世話にならずに」とい
うことなのです。

ところが、皆さんはこ
れが意外と大変なのをご
存じありません。いわゆ
る突然死はすぐには病死



門阪 庄三

と診断できませんので、
その死に事件性がないか
どうか調べられます。
家族の方は悲しみを堪え
ながら、警察の方への対
応を迫られることになり
ます。それに葬式や財産
整理などの処理に大変な
労力が必要です。そして
もっと重要なことは時間
の経過のなかで家族に悲
嘆や喪失感が襲ってくる

誰かの世話になることを考える

ことです。「幸せだった
よ。ありがとう」「私が
いなくなってもしつかり
生きるんだよ」の言葉が
残されなかった無言の旅
路は家族にはとても辛い
ものです。

さてその突然死です
が、その数は全死亡数の
1割もないと言われてい
ます。つまり、ほとんど
の方が病院・施設や自宅
で一定程度の期間、病床
で過ごした上で亡くなり
ます。つまり、私たちの
ほとんどは人生の最期の
時には誰かの「世話」に
なると言えます。私たち
の多くはころりと逝けま
せん。

に、元気な今のうちに
「苦しみに」とはどう
言うことか、「苦しみに
逝くにはどうすれば
良いかを考えておくのは
どうでしょう。そして
一つ、「世話になる」
として、食べることで助
けてもらうのか、排泄の
ことで面倒をかけるの
か、そして、「誰の世話
になる」のかを家族の方
と話しておくのはどうで
しょう。それぞれ人の想
いは違いますので結論を
出すのは難しいかもしれ
ません。家族がどんな気
持ちでいるのかを話し合
う機会を作ってください
い。

（かどさか内科クリニック）